

坂村真民記念館（砥部町）



松山市勝山町1-18-10  
(株)日本交通社  
TEL(089)946-3911  
発行人: 中村剛志

## 鏡開き



一月十一日は「鏡開き」の日です。年神様にお供えしていた鏡餅を下げる、家族の無病息災などを願つて、お雑煮やお汁粉としていただく年中行事です。江戸時代から伝わる風習といわれています。

古来、鏡開きは一月二十日に行なわれていましたが、徳川三代将軍の家光が慶安四年四月二十日に亡くなつたために、月命日を避けて十一日に行なわれるようになりました。とはいっても、今でも二十日や十五日に行なう地域もあります。

鏡餅は、木槌などで叩いて割ります。刃物を使わなければ、年神様にお供えしていたものに刃物を向けることは失礼にあたるためです。また「割る」という言葉は縁起が悪いこと、「開く」という言葉が使われています。

数百年続く行事には、祖先の崇高な思いが詰まっています。餅を二段に重ねるのは「円満に年を重ねる」という意味であり、餅の上に乗せる橙には「子孫が代々繁栄するように」という思いが込められています。先人たちは、行事を通して、私たちに様々なことを教えてくれているのです。

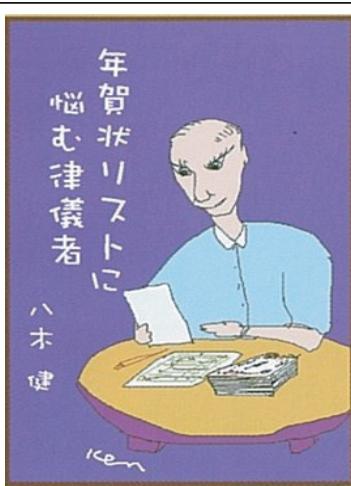
●祖先への思いを深めましょう

「職場の教養」より

## 明朗・愛和・喜動

## 宇和ちゃんの啖呵!!短歌

地図帳で確かめながら宛名書く  
あちらこちらの春思いつ  
日赤泌尿器科前通路



## 八木健さんの川柳アート

## 保親さんの人生万感

平成の大合併で消えゆきし  
故郷の地名いまも懷しむ  
お年玉孫の笑顔を思いつつ  
妻は五つの袋をつめる



道しるべ

○感謝の気持は表現してこそ  
「ありがとう」の心は言葉や形に表しましょう。  
自分も相手も幸せな気分になり、物事が良い方向に進みます。